

## 作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

| 所属                  | 氏名   | 作成日       |
|---------------------|------|-----------|
| 人間文化学部心理コミュニケーション学科 | 半田 瞳 | 2024年5月1日 |

### 【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

#### 【前期】

学習・言語心理学 A

心理実習 B

学習心理学特論

臨床心理基礎実習

#### 【後期】

教育・学校心理学

心理実習 A

専門演習 B・Dd

臨床心理査定演習 II

臨床心理基礎実習

### 【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

行動分析学に基づき、三項随伴性というシンプルな考え方で、人間の行動の謎を明らかにしていくことを主な研究としている。その行動分析的な視点を持ち、学んだ学生自身だけでなく、学生自身に関わる人も楽しく生活できるような、人材を教育したいと考えている。

### 【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

学部においては対面での講義を行い、毎回小テストや章ごとのレポートを実施している。

小テストでは前回の授業の振り返りとして、学習が身についているかを確認してもらい、

レポートにおいては自身の経験と結びつけ、より学習が促進されることを目的とした。

後期においても対面での講義を基本とし、小テストやレポートを継続して行う。

院においても対面での講義を行い、テキストを自身でまとめてもらうことや、

体験等を通して、院生の身になるよう実施した。

また、大学院附属臨床心理センターにおいて、実際に臨床を行うことで、

臨床に必要なスキル等を学んでもらっている。

**【成果】**（その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど）

小テストの取り組みや、レポートにおいて、一生懸命に学んでくれる学生が多く感じた。  
特にレポートをは、回を重ねるごとに、よりの確なレポートが増加した。  
しかし、個々において差が出てしまうこともあった。

院においては、積極的に学習に取り組んでくれた。  
質疑や体験においては、普段経験できないことを経験できたと、  
楽しんで取り組むことができたとの感想もあった。  
大学院附属臨床センターにおいては、臨床の楽しさの経験や、  
大変さなどの経験、院生自身が自分自身と向き合う機会などがあつた。

**【目標】**（今後どうするか）

行動分析学を通して、人間の謎や不思議を明らかとしていきたい。そこから学生自身の生活が、楽しいものになるよう、強化的に日々が過ごせるような学部生、院生を増やしていきたいと考えている。  
そのためには、学部生においては基本的な知識と、それを自分自身の経験や体験に落とし込む手続きが必要であるとする。また、院生においてはさらに専門性を高めることや、理論を臨床に落とし込む手続きが必要であるとする。